

厚生労働科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業))
わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究
分担研究報告書

有効な Child Death Review 制度と実施支援体制の探索
保健所・保健医師との連携体制と検証要項の確立に関する研究

研究分担者	山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター 保健センター長
	沼口 敦	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部
研究協力者	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター 保健室長

予防のための子どもの死亡検証(Child Death Review、以下 CDR)は、2020 年(令和 2 年度)より「予防のための子どもの死亡検証体制整備モデル事業(以下、モデル事業)」として、複数の自治体で導入・開始された。令和 3 年度はモデル事業の拡充を目指しており、新たに CDR を導入する際に、関係機関の連絡調整やデータ収集・検討会の運営などに関するノウハウが不足しており可能性がある。そのため本研究班では現時点の状況を踏まえ、CDR を導入・実践していくための参考となる研修資料作成(以下、資料)を行った。今後はさらなる事業の拡大や実施状況の変更に応じて、資料の追加や修正を行っていく必要がある。

A. 背景

令和 2 年度より、7 府県において試行的に CDR 実施を行う CDR 体制整備モデル事業が導入された。事業内容には ①CDR 関係機関連絡調整会議、②CDR データ収集・整理、③多機関検証委員会(政策提言委員会)が含まれ、同モデル事業は令和 3 年度も継続実施の予定である。

上記の事業の導入に際して、子どもの死亡を予防するための検証という CDR そのものへの理解、実際に情報をやりとりする上での注意点など、細かな資料が必要となる。

本研究班で作成する研修資料等のうち、本分担研究に該当する部分につき分担した。

B. 方法 および C. 結果

対象となる資料と該当部分

1. R3 調査票: B2(保健行政) B3(児童福祉)
2. R3 検証マニュアル(改訂): 養育要因、環境要因にかかる検証部分
3. 検証のチェック項目: (該当部分なし)
4. 模擬検証: 児童相談所職員、保健師による発言内容部分
5. R2 調査票記載例: B2(保健行政) B3(児童福祉)の記載内容部分
6. 啓発資料(Child Death Review(CDR) Part1 入門編): 全体的な内容確認
7. 啓発資料(CDR Part2 情報共有編(医療機関・医療職対象)): 1-2「他の専門職から医療職への期待」の監修

8. 啓発資料(CDR Part3 情報共有編(非医療職の多職種対象)): 3. 記入時の注意事項「B-2 保健行政」「B-3 児童福祉」の監修

D. まとめ

CDR を実際に行う人を対象とした資料 5 種類(R3 調査票、R3 検証マニュアル(改訂)、検証のチェック項目、模擬検証、R2 調査票記載例)および、これから CDR に取り組む人を対象とした啓発資料 3 種類(CDR Part1~Part3)を作成する中で、職種によって用語の定義や調査票の捉え方の違いが明らかとなった。今後も実際に CDR を経験した者による経験の蓄積をはかり、相互対話をとおして、様々な場面において活用できる資料(ハード面)や参考となるノウハウ(ソフト面)を構築し、多地域、多職種に共通して用いる「わが国の CDR」の構築につなげていく必要がある。

E. 健康危機管理情報

なし

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

